



2018春季生活闘争がスタート!

— 連合鳥取2018春季生活闘争「開始宣言集会」を開催 —



写真上/講師 内田連合副事務局長

連合鳥取は、2月3日(土)、倉吉体育文化会館(倉吉市)において、連合鳥取2018春季生活闘争「開始宣言集会」を開催しました。集会には、構成産別・単組から192人(うち女性32人・女性参加率16.6%)の連合鳥取の組合員が集結し、今次春闘方針の浸透を図るとともに、春季生活闘争勝利に向け総力を結集し闘っていくことを全体で確認しました。

□ 本川博孝会長あいさつ (要旨)

春闘においては、単組それぞれが、まず要求書を提出しなければ労働組合としての存在意義がない。昨年は一昨年に比べ14単組多い89単組が要求書の提出をしたが、やはり、すべての単組が提出することが大変重要である。連合鳥取は、中小労組が多い組織である。ぜひ中小共闘に結集し、社会全体に大きな流れを作り、「底上げ・底支え」「格差是正」の実現に向けた取り組みをお願いする。

□ 講演

「連合2018春季生活闘争と働き方改革の取り組みについて」

連合本部より副事務局長の内田厚さんを講師に迎え、経済情勢・賃金動向、さらには働く者を取り巻く現状を認識した上で、2018春闘の連合としての取り組みや働き方改革への見直しについて説明

をいただきました。

【内田副事務局長の訴え】

日本経済は、少しずつ回復傾向にあるが、労働者への公平な分配が成されず、個人消費の伸びが芳しくない。個人消費を拡大し、経済の自立的成長を促すためにも月例賃金の引き上げをする必要がある。働き方改革においても時間外上限規制が設けられたが、高度プロフェッショナル制度・裁量労働制の拡大については連合としても反対の考えでいる。

□ 連合鳥取春闘方針について

田中穂事務局長から、今春闘においても月例賃金の引き上げにこだわり、賃上げの流れを継続・定着し、「底上げ・底支え」「格差是正」へ繋げるとした、連合鳥取2018春闘方針を提起しました。

参加者の声

電機連合・オムロンスイッチアンドデバイス労働組合

内藤陽介さん



本集会に参加し、連合方針が策定に至った背景や考え方について理解を深めることができた。

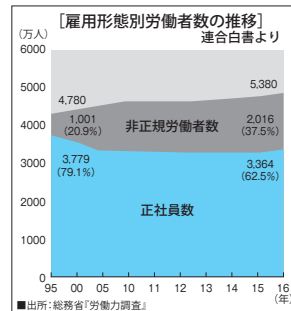
5年連続のバアや企業内の最低賃金の取り組みは、県別最賃の引き上げにつなげ、クラシノソコアゲに波及させる重要な取り組みとして意識し、単組の春闘に取り組んでいきたい。

JAM・日圧スーパーテクノロジーズ労働組合
柳澤直樹さん



毎年参加させていただいている「春闘開始宣言集会」ですが、全国の働く仲間たちの生活水準向上のためにも、我々労働組合という組織に属する者たちから、社会運動に発展させるような活動の必要性を改めて感じた。

そのためにも、個々の産別、労組での積極的な運動、活動を、今後ますます推進していきたい。



すべての労働者の立場にたって働き方を見直そう!
「底上げ・底支え」「格差是正」でクラシノソコアゲ!

2018春季生活闘争特集

経営者団体との意見交換会を実施

連合鳥取は、春季生活闘争の開始に経営者団体と労使交渉をめぐる諸問題について、毎年この時期に意見交換を行っています。

今年度は、2月7日(水)、対翠閣(鳥取市)において、連合鳥取から本川博孝会長他10人、経営側から鳥取県経営者協会の宮崎正彦会長他10人の出席がありました。

はじめに、宮崎会長は「安倍総理は経営団体に大企業は3%、中小企業は1.5%の賃金引上げを要請された。県内の景気の動向は不透明感で生産動向も足踏みが見られ、情勢は景気先行き不透明の状況で年取ベースが現実であり、ベースアップ要求には慎重でならざるを得ないことを理解してほしい」と発言されました。

一方、本川会長からは今次春闘の取り組む考え方や、2018春闘の課題として、①1,000円(地域間格差是正)による都市部との賃金格差(2万円)の縮小、②労働力が県外に流出している現実、③働き方改革での今通常国会審議中である「同一労働同一賃金」、「長時間労働」、「非正規社員の処遇改善」等を注視すること、などを提起し、経営側に「これからの地域での交渉に繋げてほしい」と理解を求めました。

続いて、田中穂事務局長より「連合鳥取2018春闘方針」について説明を行い、意見交換を行いました。



<連合鳥取からの意見>

- ・県内の企業で定昇制度をとっているところは少ない。
- ・年齢の上の人退職や内転原資(一歳、一年格差)により、人件費がかさむ分けではない。

<経営側>・景気が良いとはいえない。

- ・実際の個人消費には回っていない。
- ・経営側も頑張るが、個々の事業者の支払い能力による。
- ・できる企業は制度・処遇改善すればよい。

2018連合鳥取春季生活闘争方針の浸透&具体的取り組みの徹底を図る

―東部・中部・西部地協「単組代表者会議」に組合員と連合鳥取推薦議員 約140人が参加―

連合鳥取の東部・中部・西部地域協議会は、「連合鳥取2018春季生活闘争」の方針と具体的取り組みについて周知徹底を図るため「単組代表者会議」を開催しました。



2月13日(火)/白兔会館:42人



2月14日(水)/倉吉体育文化会館:42人

- ①「連合鳥取2018春季生活闘争方針」説明と具体的取り組みについて
 - ②「クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン」の説明
 - ・36協定の点検(締結の確認と周知他)
 - ・ミニマム運動(単組での活用他)
- ☆分析機関集計結果や賃金分析システムの活用により問題点の洗い出しや様々な比較をしましょう。



2月9日(金)/米子コンベンションセンター:52人

- ①「連合鳥取2018春季生活闘争方針」説明と具体的取り組みについて
- ②中部地区の推薦議員活動報告
(伊藤保鳥取県議会議員、興治英夫鳥取県議会議員、福井康夫倉吉市議会議員、澤田豊秋琴浦町議会議員)

- ①「連合鳥取2018春季生活闘争方針」説明と具体的取り組みについて
- ②米子市議会議員選挙の状況説明(推薦議員の紹介と今後の取り組み方)

「働き続けたい!なぜ辞めなければならない!?STOP 雇止め・雇用不安!

連合労働相談ホットライン(2月8日(木)~10日(土))に全国で約800件の相談

連合は、①労働契約の更新時期を迎える年度末であること、②2018年4月1日から始まる「無期転換ルール」の開始を目前に控えた「雇止め」などの雇用問題の増加が予想されること、③2018春季生活闘争において非正規雇用労働者の雇用確保や適正な処遇の確保に取り組んでいること、を踏まえて春季生活闘争と連動した取り組みとして「全国一斉労働相談ダイヤル」を実施し、連合鳥取も相談体制を整えて取り組みました。

中でも、「無期転換ルール」については、周知不足や企業における準備不足等の状況が伝えられており、法律の趣旨に添った「無期転換ルール」の周知や活用方法等を徹底する取り組みが喫緊の課題となっています。今回の相談では、「労働契約」に関する相談が例年より多く寄せられています。

連合は、今後も非正規雇用労働者をとりまく厳しい職場や雇用実態を明らかにし、社会へ発信していきます。



連合「中国ブロック代表者会議」開催される

2月19日(月)、ワークピア広島(広島市)において、連合本部主催の「中国ブロック代表者会議」が開催され、各地方連合会の代表と中国ブロックの産別代表者、総勢46人が出席し、鳥取県からは、寺谷昭人執行委員長(日教組)と若月哲郎支部長(紙パ連合)が出席しました。会議では、2018春闘、働き方改革の取り組み、混迷する政治情勢について、神津里季生連合会長をはじめ連合本部役員と議論を交わしました。



左より/寺谷委員長、神津会長、若月支部長

学校における働き方改革&消費者啓発について
鳥取県知事と鳥取県教育委員長に要請行動を実施

“思いやり”の心で
よりよい消費社会を
つくろう！

教育現場の悲鳴を聞いて!

文部科学省による教員勤務実態調査(2016年度)によると、教員の平均勤務時間は10年前の調査から30分以上増え、1日平均で11時間を超えています。過労死リスクが高まるとされる「過労死ライン」である月平均80時間以上の時間外労働に相当する教員が、中学校で約6割、小学校で約3割と、教職員の健康や教育の質の確保が危機的な状況になっています。

そこで、連合鳥取は2月13日(火)、平井伸治鳥取県知事と山本仁志鳥取県教育委員会教育長に、学校における働き方改革を進めるために、教職員の長時間労働を着実に是正するための具体的な方策を実行するよう要請しました。鳥取県・教育委員会も問題意識を持ち、改善に向けた取り組みを実施していく予定とのことです。

＜意見交換の中より（抜粋）＞

- ・デスクワークの圧縮など対応が必要。(知事より)
- ・3年かけて10%、20%、30%の目標を掲げて取り組む。(教育委員会より)

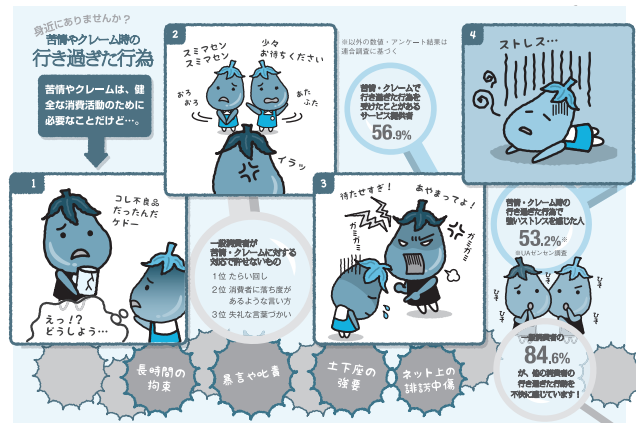


平井知事(中央)に要請の趣旨を訴える



山本教育長(右)に要請書を手交

また、近年、消費者による暴言や恫喝などの行き過ぎた行為や、暴力や長時間拘束などの迷惑行為によって、労働者が精神的なストレスを抱えていることが課題となっています。その一方、「迷惑行為についてのマニュアル作成や教育を行っていない」事業者が57%となっている実態もあります。そこで、「消費者への啓発活動」など、行政における取り組み強化などについて、平井鳥取県知事に要請しました。



私たち自身も、“消費者としての自らの行動を見つめなおす”など、一緒に考えていきましょう。

東部地協「2018年度政策・制度に関わる要請書」を
深澤義彦鳥取市長と寺谷誠一郎智頭町長に手交

東部地協は2月13日(火)、鳥取市に対して「2018年度政策・制度に関わる要請書」を提出しました。

要請項目として、①雇用・労働政策、②教育政策(小学校の英語教科化に伴って、英語専科の教員を全小学校に配置する予算を組むこと)、③公共交通・運輸政策、④福祉・医療・生活環境対策(ごみの分別で一般ごみとプラスチックごみの仕分けが必要か検討していただきたい)など16項目の要請となりました。

また、2月14日(水)には、智頭町に対しても同様に、「昨年の台風で片側通行となっている国道53号・智頭トンネルの早期復旧を望む」という内容の要請書を提出しました。国の事業として復旧工事の予算の目途がついており、今後は秋の完成に向けて工事が進められる予定とのことです。



深澤鳥取市長(右)に手交



連合鳥取推薦の市議会議員の
みなさんも一緒に意見交換

介護で離職しないために 執行委員会メンバー「仕事と介護の両立」について学ぶ

2月15日(木)、「第3回執行委員会」終了後、公益財団法人介護労働安定センターの協力により、社会福祉法人鳥取福祉会の坂尻昭広さんを講師に迎え、「介護で離職しないために仕事と介護の両立」をテーマに講演いただきました。

グラフを用いた少子高齢社会の現状、それに伴う介護離職の増加、「育児・介護休業法」をはじめとする介護の基礎知識など、ポイントを押さえて説明がありました。「一人が一人の高齢者を支えなければならない時代が来る」という、耳をふさぎたくなる現状と向き合い、自分のこととして考える機会になりました。

自分に置き換えたとき、働きながら介護するというのはそう遠い未来ではありません。事前の心構えを持つことが、介護に直面した際、離職せずに働き続けられる安心の第一歩だと実感しました。

◆あなたの職場は「家族等の介護を行っている」ことを伝えやすい職場ですか？
あなたの職場の両立支援制度を確認しましょう！



Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へ
お問い合わせください。

■ご存知ですか? 3.8国際女性デー■

女性委員会は、毎年「3.8国際女性デー」の行動として「街宣」や「学習会」を実施しています。

本年は、下記の通り2つの取り組みを企画いたしました。

※各地協春闘勝利総決起集会(3月2日)の会場周辺での
チラシ入りポケットティッシュ配布

※学習会

- 日 時 3月4日(日)
13時30分～
- 場 所 伯耆しあわせの郷
- 内 容
 - ①講演「3.8国際女性デーの歴史と意義(仮)」
講師／連合総合男女・雇用平等局長 井上久美枝さん
 - ②グループワーク

3月8日は、国際女性デー

3.8 国際女性デーとは?

☆1957年にニューヨークで起きた工場火災で、多くの女性たちが亡くなったことを受け、3月8日に低賃金・長時間労働に抗議する集会が開かれたことが起源です。

☆その後、国連においてこの日は、「女性の権利と平等のために闘う記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と女性の尊厳、人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今も世界各国で様々な行動が展開されています。

連合は すべての人の対等・平等、
人権の尊重をめざし取り組みます!

鳥取県メーデー大会開催日決定!!

- 開催日 2018年4月29日(日)
- 場 所 3会場(東部・中部・西部)
※中央大会／米子市(西部地協担当)
※現在、各地域協議会で企画中。

◆今年も「メーデー川柳」を募集◆ ～多数のご応募お待ちしております～

すべての労働者の立場にたって
働き方を見直そう!
「底上げ・底支え」「格差是正」で
クラシノソコアゲ!

- 応募資格 連合鳥取組合員(退職者含む)・1人1点に限る
- 応募締切 4月2日(月) 連合鳥取事務局必着
- 表彰・賞金
 - 最優秀賞1点(2万円) ※入選者の最寄りのメーデー会場
で表彰
 - 優秀賞3点(1万円)
 - 佳作 6点(5千円)
- その他 入選作品はメーデー大会レジメで紹介

メーデー川柳

“ザ・議員”

坂野 経三郎 鳥取県議会議員

昨年の9月定例県議会にて、初当選以来2回目の代表質問の機会をいただきました。会派民進党の代表質問を契機に財政運営、学校教育環境や人権教育など、県政課題が前に進みました。

民進党青年局の一員としても、活動の幅が広がりました。他府県の青年議員との交流を通じ、互いの選挙応援や情報交換を重ねています。

また、電機連合鳥取地域協(東部ブロック)地域改革フォーラムでは、1時間半にわたる県政報告の場を初めていただきました。より深く、一人ひとりの組合員のみならずと交流させていただきたく、どんな小さな会でも結構ですので、お声がけいただけると幸いです。

昨今の政治情勢を見ると、野党がしっかり育つ必要を痛感します。今後、伊藤代表を先頭に、更なる取り組みを進めます。

引き続きよろしくお願いいたします。

県政報告の様子<2月17日(土)>



大森 英一 伯耆町議会議員

2013年4月に行われた伯耆町議会議員選挙に続き、2017年4月の改選も無投票という結果になりました。「定数を減らせ」という有権者からの声を受け、議員定数等調査特別委員会を立上げ、10回の会議を重ねました。その間、定数を減らした他議会への視察や住民アンケートの分析を行うことで方向が見えてきました。アンケートで現状定数をどう思うかの設問では、「減らした方が良い」が「増やした方が良い」と「現状維持」を足した数より5.7ポイント上回ったものの、「わからない」の26.3%や、現状維持の趣旨の意見も多数あり、委員会では「定数については現状を維持する」という結果になりました。

委員会採決では、「過疎地域の声が届けにくくなることや、議員の資質向上が伴わない現状では、パフォーマンスになり兼ねず、アンケートで指摘された問題点の解決が先である」という主張で、私は現状維持を支持しました。

議員定数等調査特別委員会(第10回)の様子



「心技体」というと「相撲」と
昨年末の鳥取を全国版にした
ことを思い出す人も多いと思
いますが、相撲と相撲人を嫌
いにならないでください▼周
りからは「相撲好きなの?」と
よく聞かれます。何年も組合
役員やっていると、「組合好き
なの?」と聞かれます。相撲が
好き、組合活動が好きという
より、一生懸命向き合っている
「人」が好きなんです▼先日、
もっと好きになれそうなたた
ちに会いました。連合鳥取
に女性役員が増えました。新
鮮さを感じ生き生きしている
発言、発想、「学習会やりたい」
の声。いいですねえ。「女性と
若者のいない組織は衰退す
る」：上智大学の三浦先生の
ことばを思い出しながら顔が
ゆるむ▼男女平等・働く女性
の問題は男性の問題でもある。
誰もが安心・安全に暮らすこ
とのできる地域社会。

さあ2018
春季生活闘争が
スタートした。

(太陽)



てんじんくらせ



再生紙を使用しています